

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

- Q1. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 解説：「見」上一段連用形＋「せ」＋「ば」（假定）＋反実仮想「なまし」。「月を見たならば、思い出すだろうに」。反実仮想の典型。
- Q2. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 解説：「旅行す」サ変未然形＋打消「ず」。「旅行しない」。
- Q3. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） 解説：「行か」四段未然形＋尊敬「す」未然形＋尊敬「たまふ」。主語が帝（高貴）で、下に尊敬「たまふ」→尊敬の二重敬語。「お行きになる」。
- Q4. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 解説：「取ら」（四段「取る」未然）＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまふ」。「主が家臣に取らせる」→使役。「家臣に物を取らせなさる」。
- Q5. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 解説：「来（き）」カ変連用形＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「夏が来たなら、衣替えするだろうに」。
- Q6. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 解説：「勉強す」サ変未然＋打消「ず」已然形「ね」。「勉強しないので／勉強しない」。
- Q7. 答え：下二段動詞「仰す」未然形「仰せ」の一部 解説：「仰せ」は下二段動詞「仰す」（おっしゃる）の未然形そのもの。助動詞ではない。直後の「らる」（尊敬の助動詞）は未然形接続。「仰せらる」全体で「お命じになる」「おっしゃる」の意の敬語表現。
- Q8. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 解説：「あら」ラ変「あり」未然形＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令形。文脈で使役か尊敬かが決まる。典型：「あらせたまへ」は「（～の状態に）してくださいませ」または「いてくださいませ」。
- Q9. 答え：反実仮想の助動詞「まし」未然形「ませ」 解説：「吹か」（四段未然）＋「ませ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「もし風が吹いたならば、波が立つだろうに」。「ませば～まし」は反実仮想の典型構文。
- Q10. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 解説：「試験」（名詞）を目的語にとり「（試験を）する」の意の「す」（サ変）未然形＋意志「む」。「試験をしよう」。
- Q11. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） 解説：「書か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。主語が中宮（高貴）。「お書きになる」。
- Q12. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 解説：「仕事」＋「す」サ変未然＋使役「さす」。「弟に仕事をさせる」。
- Q13. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 解説：「知り」四段「知る」連用形＋過去「き」未然「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想の標準形「連用形＋せば～まし」）。「（あの時）知ったならば、（今）来るだろうに」。
- Q14. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 解説：「走ら」四段未然＋使役「す」未然＋尊敬「たまふ」。文脈「大臣が馬を走らせる」→使役。
- Q15. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 解説：「解か」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令。文脈で：誰かに解かせる→使役 / 自ら解く（高貴）→尊敬。
- Q16. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 解説：「念仏す」（複合サ変）連用形「し」＋存続「たり」。「法師が念仏していた」。サ変「す」の連用形は「し」。
- Q17. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） 解説：「昇ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。主語が君（高貴）。「お昇りになる」。
- Q18. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 解説：「言ひ」四段連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「物を言ったならば、答えるだろうに」。

Q19. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅す」（複合サ変）未然形＋打消推量「じ」。「旅をしないだろう」。

Q20. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「作ら」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「御製」（＝帝の作品）を作る主体は帝、高貴な主語＋下に尊敬。「お作りになる」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「降り」四段連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（完了「ぬ」未然「な」＋反実仮想「まし」）。「雨が降ったならば、止んだだろうに」。

Q22. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅装す」（複合サ変、＝旅支度をする）未然形＋打消「ず」。「旅装をしない」。

Q23. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「楽しま」（四段「楽しむ」未然）＋尊敬「す」未然「せ」＋尊敬「たまふ」。「自ら」とあるので動作主は帝自身。「自らお楽しみになる」（尊敬の二重敬語）。

Q24. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「知ら」四段未然＋使役「す」未然＋打消「ず」已然形「ね」＋「ば」（原因）。「知らせないので、答えない」。

Q25. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（反実仮想）。「春が来たならば、雪が解けるだろうに」。

Q26. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「いざ」（＝さあ）＋「す」サ変未然＋意志「む」。「さあ、しよう」。

Q27. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**「召さ」（四段「召す」未然）＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」＋完了「り」。「内裏からお呼び出させなされた」。

Q28. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「嘆か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「高貴な主語の場合「お嘆きになる」」。

Q29. 答え：形容詞「狭し」（ク活用）已然形「狭けれ」 **解説：**形容詞「狭し」（ク活用）已然形＋接続助詞「ば」（原因）。「道が狭いので通りにくい」。

Q30. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「食事す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「お食事なさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q31. 答え：使役・尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「御覽ぜ」（サ変「御覽ず」未然形）＋使役・尊敬「さす」連用形「させ」＋尊敬「たまふ」。動作主が中宮自身なら「ご覧になる」（尊敬の二重敬語）。※「す」と「さす」の使い分け：「さす」は下一段・上一段・下二段・上二段・カ変・サ変未然形接続。「御覽ず」はサ変なので「さす」が付く。

Q32. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「見」上一段連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」。「月を見たならば、夜が更けてしまうだろうに」。

Q33. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「詠ま」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「自ら」が示すように主語が動作主＝高貴。「お詠みになる」。

Q34. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**使役「す」は未然・連用同形「せ」。下接「けり」は連用接続なので、ここの「せ」は連用形。「汲ま」（四段未然）＋使役「す」連用「せ」＋過去「けり」。「子に水を汲ませた」。

Q35. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅す」（複合サ変）未然形「せ」＋打消推量「じ」。「旅をしないだろう」。

Q36. 答え：使役の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「寝（ね）」（下二段「寝」未然）＋使役「さす」連用形「させ」＋尊敬「たまふ」。下二段未然形接続なので「さす」が付く。「子を寝かせなさる」。

Q37. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」＋完了「ぬ」終止形 **解説：**「行か」四段未然＋使役「す」連用＋完了「ぬ」。「行かせてしまった」。

Q38. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」＋存続「たり」 **解説：**「知ら」四段未然＋使役「す」連用＋存続「たり」。「知らせていた」。

Q39. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「弾か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「お弾きになる」。

Q40. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「行（おこな）」（名詞 or 語幹）＋サ変「す」未然＋願望「ばや」。「行いたい」。 ※「ばや」は未然形接続の願望終助詞。

Q41. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」（反実仮想）。「（あの時）来たならば、よかっただろうに」。

Q42. 答え：サ変動詞「す」已然形「すれ」 **解説：**「仕事す」（複合サ変）已然形「すれ」＋接続助詞「ども」（逆接）。「仕事をするけれども疲れない」。

Q43. 答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「治め」下二段「治む」未然形＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。下二段未然形接続なので「さす」が付く。「お治めになる」。

Q44. 答え：使役の助動詞「す」連用形「せ」 **解説：**「止ま」（四段「止む」未然）＋使役「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「（神様などに）雨を止めさせてくださいませ」。

Q45. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「思ひ」（名詞or連用形）＋サ変「す」未然＋打消「ず」。「思いをしない／思わない」。

Q46. 答え：尊敬の助動詞「す」連用形「せ」（二重敬語） **解説：**「参ら」（四段「参る」未然）＋尊敬「す」連用「せ」＋尊敬「たまへ」命令。動作主は相手自身。「内裏にご参上なさいませ」。

Q47. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「見」（上一段連用）＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「月を見たならば、宴を催すだろうに」。「せば〜まし」の反実仮想構文。

Q48. 答え：尊敬の助動詞「す」連用形「せ」（二重敬語） **解説：**「催さ」（四段「催す」未然形）＋尊敬「す」連用形「せ」＋尊敬「たまふ」。四段の未然形に付くのは「す」（「さす」が付くのは四段・ナ変・ラ変以外）。主語は帝で、「せたまふ」で「お催しになる」（二重敬語）。

Q49. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「破ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。誰かに破らせる→使役、自分で破る（高貴）→尊敬。

Q50. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「仏事す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「仏事をなさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

【第3部】応用編（Q51～Q80）

Q51. 答え：①最初の「せ」＝尊敬の助動詞「す」未然形（二重敬語） ②「見せさせ」の「さ」は使役の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：** - 「書か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまひ」 → 二重敬語「お書きになる」 - 「見せ」（下二段「見す」連用）＋「させ」（使役「さす」連用）＋尊敬「たまふ」 → 「お見せさせなさる」

Q52. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋引用「と」。「『春が来たならば』と夢に見える」。

Q53. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「召さ」四段「召す」未然形＋使役「す」未然「せ」＋尊敬「たまふ」。使役「す」は未然形接続。「朝廷が僧を召させなさる」。

Q54. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「倒さ」四段未然＋使役「す」未然「せ」＋過去「けり」。「嵐が木を倒させた」＝「嵐が原因で木が倒れた」。

Q55. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「もし」（假定）＋「来」カ変連用＋「せ」＋「ば」＋「まし」。反実仮定の典型。「もし春が来たならば、花が咲くだろうに」。

Q56. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「旅す」（複合サ変）連用形「し」＋尊敬「たまふ」。「とても急いで旅をなさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q57. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「吹か」四段未然＋使役「す」未然＋打消推量「じ」。「私は（人に）笛を吹かせない」。

Q58. 答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「治め」下二段「治む」未然＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。下二段未然＋「さす」。「お治めになる」（二重敬語）。

Q59. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「楽しま」四段「楽しむ」未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「お楽しみにになる」。

Q60. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「降ら」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。文脈「庭に雪を降らせなさる」（使役、神様が雪を降らせる）か「庭に雪が降る（神様の動作の尊敬）」。
※ 神様や帝が「降らせる」場合、神事的表現では使役。

Q61. 答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「御覧ぜ」（サ変「御覧ず」未然）＋尊敬「さす」連用＋尊敬「たまふ」。「ご覧になる」（二重敬語）。※「御覧ず」自体が尊敬語。さらに二重敬語にする。

Q62. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「帰り来（き）」連用＋「せ」＋「ば」＋「なまし」（反実仮想）。「もし帰って来たならば、喜ぶだろうに」。

Q63. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「嘆か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまへ」已然＋「ば」（原因）。「お嘆きになるので、人々皆涙を流す」。

Q64. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「驚か」四段未然＋尊敬「す」未然＋尊敬「たまふ」。「殿はひどくお驚きになる」。

Q65. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「学（がく）」＋サ変「す」未然＋打消推量「じ」。「学問をしないだろう」。

Q66. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「問は」四段未然＋使役「す」未然＋意志「む」。「（人に）尋ねさせよう」。※原典（伊勢物語）は「言問はむ」（使役なし）。本問は識別のため使役「せ」を加えた改変。

Q67. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「照らさ」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまふ」。月や神の主体なら尊敬「お照らしになる」、誰かを照らさせる場合は使役。

Q68. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「立た」四段未然＋「せ」＋尊敬「たまへ」命令。「さあ、お立ちになってください」（尊敬）or「立たせてくださいませ」（使役）。

Q69. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「家臣に書かせる」→動作主は家臣、主は使役の指示者。使役。

Q70. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**主語が帝で動作主も帝。下に尊敬「たまふ」→二重敬語「お描きになる」。

Q71. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「行き」（四段「行く」連用）＋「せ」＋「ば」＋反実仮想「まし」。「私が行ったならば、君はとどまるだろうに」。「せば～まし」の反実仮想構文。

Q72. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「入内（じゅだい）す」（複合サ変）連用形「入内し」＋尊敬「たまふ」。「たまふ」は連用形接続。「入内なさる」（高貴な女性の入内に対する尊敬表現）。

Q73. 答え：下二段動詞「仰す」未然形語尾「せ」 **解説：**「仰す」（下二段、敬語動詞）未然形「仰せ」＋尊敬「らる」連体「るる」＋形式名詞「やう」。「お命じになることには」。※「仰す」自体が尊敬語動詞で、「せ」は活用語尾。助動詞「す・さす」の「せ」ではない。

Q74. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「知ら」四段未然＋使役「す」未然＋打消「ず」。「知らせない」。

Q75. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「旅す」サ変未然+打消推量「じ」+引用「と」。「旅をしないだろうと思う」。

Q76. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「困ら」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまへ」連用+完了「り」。「物の怪にお困りになっていた」。

Q77. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「言は」四段未然+使役「す」未然+打消「ず」。「思うことを言わせない」。

Q78. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「上ら」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまふ」。高貴な主語。「お上りになる」。

Q79. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「吹き」四段連用+「せ」+「ば」+「なまし」（反実仮想）。「風が吹いたならば、舟を漕ぐだろうに」。

Q80. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「来（き）」（カ変連用）+「せ」+「ば」+反実仮想「まし」。「春が来たならば、花が咲くだろうに」。「せば〜まし」の反実仮想構文。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81. 答え：①「させ」=尊敬の助動詞「さす」連用形 ②「仰せらる」の「せ」=下二段「仰す」連用形語尾 **解説：** - 「見」上一段連用+尊敬「さす」連用「させ」+尊敬「たまふ」→二重敬語「ご覧になる」 - 「仰せらる」：「仰す」（下二段、敬語動詞）連用「仰せ」+尊敬「らる」終止形

Q82. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「問は」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまへ」已然+「ば」（原因）。伊勢物語「東下り」の場面の改変。「お尋ねになるので、舟人が涙を流す」。

Q83. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「弾か」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまへ」已然+「ば」。「御琴をお弾きになるので、心ある人々が皆涙ぐむ」。

Q84. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「降り」（四段連用）+「せ」+「ば」+反実仮想「まし」。「雪が降ったならば、とても心細いだろうに」。「せば〜まし」の反実仮想構文。

Q85. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「走ら」四段未然+使役「す」未然+尊敬「たまふ」。「御使いを走らせなさる」（使役）。

Q86. 答え：下二段動詞「仰す」連用形「仰せ」の語尾 **解説：**「仰す」（下二段、敬語動詞）連用形「仰せ」+名詞「事」+四段「承る」連用。「お命じになったことを承って、退出する」。※「仰せ事」（おほせごと）で「お言葉、ご命令」の意の合成語。

Q87. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「勉強す」サ変未然+打消推量「じ」+引用「と」。「私も勉強しないだろう、と思っているのだ」。

Q88. 答え：①「作らせ」の「せ」=尊敬の助動詞「す」未然形（二重敬語） ②「仰せらる」の「せ」=下二段「仰す」連用形語尾 **解説：** - 「作らせたまふ」：尊敬の二重敬語「お作りになる」 - 「仰せらる」：「仰す」連用+尊敬「らる」終止

Q89. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「言は」四段未然+使役「す」未然+願望「ばや」。「（人に）物を言わせたい、と心に願う」。

Q90. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」（二重敬語） **解説：**「苦しま」四段未然+尊敬「す」未然+尊敬「たまふ」。「中宮が物の怪にお苦しみになるのを、加持祈祷申し上げる僧が、一晚中祈りに励む」。

Q91. 答え：サ変動詞「す」命令形「せよ」 **解説：**「す」サ変命令形は「せよ」。「よし、私の心の通りにせよ／私の意志に従え」。

Q92. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「す」サ変未然+打消「ず」連体形「ぬ」+体言「慈悲」。「仏でも持たない慈悲を、母は子に与える」。

Q93. 答え：過去の助動詞「き」未然形「せ」 **解説：**「住み」(四段「住む」連用) + 「せ」 + 「ば」 + 反実仮想「まし」。「私が独り住んだならば、寂しいだろうに」。「せば〜まし」の反実仮想構文。

Q94. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」(二重敬語) **解説：**「作ら」四段未然 + 尊敬「す」未然 + 尊敬「たまひ」連用 + 過去「き」連体「し」 + 準体助詞「を」。「院がお作りになった御製を、世に伝えるべきだ」。

Q95. 答え：尊敬の助動詞「さす」連用形「させ」 **解説：**「慰め」下二段「慰む」未然 + 尊敬「さす」連用 + 尊敬「たまふ」。「旅にある人を、お慰めなさる」(二重敬語)。

Q96. 答え：使役の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「悲しま」四段「悲しむ」未然 + 使役「す」未然 + 打消推量「じ」。「私は人を悲しませないだろう」。

Q97. 答え：サ変動詞「す」連用形「し」 **解説：**「御幸す」(複合サ変) 連用形「し」 + 尊敬「たまふ」。「法皇が御幸なさる」。サ変「す」の連用形は「し」。

Q98. 答え：使役 or 尊敬の助動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「濡らさ」四段未然 + 「せ」 + 尊敬「たまへ」連用 + 完了「り」連体 + 詠嘆「かな」。「春雨に濡らされなさったことよ」(尊敬の受身) or 「(誰かに) 濡らさせなさった」(使役)。

Q99. 答え：尊敬の助動詞「す」未然形「せ」(二重敬語) or 使役 **解説：**「祈ら」四段未然 + 「せ」 + 尊敬「たまへ」 + 逆接「ど」。文脈「物の怪を退散させるために祈祷を行わせる」→ 使役(高貴な主語が僧侶に祈祷させる)が自然。

Q100. 答え：サ変動詞「す」未然形「せ」 **解説：**「絶え」下二段「絶ゆ」連用 + サ変「す」未然 + 打消「ず」連用 + 「して」。方丈記冒頭の改変(原文は「絶えずして」)。「絶ゆ」 + 「す」 = 「絶ゆることをしない」の意で、サ変動詞「す」が補助的に付く稀な用法。実際の方丈記原文は「絶えずして」(絶え + 打消ず)が正格。